

## 令和5年1月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和5年1月30日（月）13時00分～13時35分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>読売新聞、Y T S、山形新聞、河北新報、NHK、毎日新聞、置賜日報

<市>市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

(1) 上杉雪灯籠まつりが3年ぶりの本格開催となりますが、期待感を教えてください。去年、一昨年と中止になっていましたが、その影響について、市長はどのように感じていましたか。

(2) J R米坂線の早期復旧を要望していますが、手応えはいかがですか。沿線自治体同士の協議は進んでいますか。

(3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和4年度1月の定例記者会見を開催いたします。本日の記者会見では、初めに市長から米沢市シティプロモーション動画に関する情報発信があります。その後、記者クラブからいただいた事前の質問に回答させていただき、質疑に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長

米沢市シティプロモーション動画についてですが、地方創生や地域活性化を目的として全国的に進められているシティプロモーションですが、近年は特に、移住・定住の促進や関係人口の増加に繋がることから、持続可能なまちづくりに関わる取り組みとしても関心が高まっています。本市においても、移住や観光に関する情報発信は日ごろより行っていますが、この度、シティプロモーション活動の一環として、本市職員が米沢市シティプロモーション動画バージョン1を製作しました。コンセプトは、「米沢に暮らす人々が愛着を持って眺める原風景を、米沢を知らない人に共感をもって伝える」です。約5分間の動画です。ご覧ください。

この動画は、視察に訪れた方や新たに米沢に転入された方に公開し、米沢というまちを知っていただくために活用していきます。また、市公式YouTubeチャンネル等で

公開するほか、各課で自由に使用できるものとし、広く活用していきたいと思います。先ほど、米沢市シティプロモーション動画バージョン1と言いましたが、この動画は本市職員の完全手作りのため、これからもバージョンアップしていく予定です。広くご周知いただきますよう、お願いいたします。情報発信は以上です。

## ○市長

今回のご質問は2点ありました。

まず1点目は、「上杉雪灯籠まつりが3年ぶりの本格開催となりますが、期待感を教えてください。去年、一昨年と中止になっていましたが、その影響について、市長はどのように感じていましたか。」という内容です。

雪灯籠まつりは3年ぶりの開催となります。雪灯籠まつりには3つのコンセプトがあります。1つ目は「平和を願う」です。先の大戦で亡くなった方の魂を祀る鎮魂祭も行っております。2つ目は「市民参加」です。会場周辺だけでなく、いくつかの場所で市民に参加していただき、米沢の冬のイベントとして今日まで開催してきました。3つ目は「おもてなし」です。観光にとっては必須であるおもてなしの心を醸成しながら雪灯籠まつりを開催していきます。特に市民参加については、雪灯籠制作はもちろん、それぞれの地域で独自の取り組みをしていただいています。例えば、西部雪まつりや万世オレンジロード雪まつり等、市内各地と連携し一体的にまつりを盛り上げていきます。地域を挙げてまつりに参加し、お祝いをしていこうということで、3年ぶりに開催できることを大変嬉しく思います。まつりに参加することによって、地域の連帯感が強まる、地域が活性化するということを期待しています。

中止になっていた影響ですが、これまでも四季のまつりやイベントが中止や延期になってきた経過があります。このような行事は、継続することにより継承されていきます。市民の皆さま、団体の皆さまに参加していただいていた雪灯籠まつりなので、それを一旦中止してしまうと、通常開催に戻ることができるか少し心配しなければなりませんと思います。また、継続して開催することによって伝承されていくものなので、その影響について若干心配な部分があります。

2点目は、「JR米坂線の早期復旧を要望していますが、手応えはいかがですか。沿線自治体同士の協議は進んでいますか。」という内容です。

1月16日(月)にJR東日本新潟支社へ伺い、JR米坂線の早期復旧に関する要望を行ってきました。当日は、山形県副知事および新潟県の関係者と両県の沿線自治体の首長が参加し、早期復旧に向けて、それぞれの地域の思いを伝えてきたところです。本市からは、早期復旧の意味として、米坂線を利用して本市に通学している高校生が、被災前の令和2年度の推計値として344人いることを伝え、今泉以西の米坂線の早期復旧を望むと話してきました。また、本市としてもJRとの乗り継ぎに合わせた市民バスの運行に取り組んでいくことや、米沢駅にコワーキングスペースを整備して鉄道利用者の利便性向上に努めていることも話してきました。

手ごたえとしては、具体的な着手への回答はありませんでしたが、河川・道路・山林をそれぞれどのように復旧していくか、技術的な検討を進めているということが確認できてよかったと思います。また、復旧までの代替え輸送に関する丁寧な対応を約束してもらえたことから、前向きな対応だったと感じています。

沿線自治体同士の協議に関しては、今回の要望活動にも沿線自治体の首長が参加しており、早期復旧に全力を挙げる方針は一致しています。今後も、「米坂線整備促進期成同盟会」や、最近組織化された、「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会」等で、早期復旧に向けた要望活動を含めた取り組みを進めていきたいと思っています。

○記者

1点目の雪灯籠まつりについて伺います。雪灯籠まつりとは関係ないかもしれませんが、5月に新型コロナウイルスが5類に移行することについて、市長としてはどうお考えですか。

○市長

5月8日(月)から、新型コロナウイルスが2類から5類へ引き下げられるという報道がされています。しかしながら、新型コロナウイルスの感染が終息することで5類に引き下げられるということではないと理解しています。今まで同様に感染予防をしっかりとしていかなければなりません。それと同時に、5類に引き下げられたことで、このようなイベントあるいは地域経済をどう回していくかも大きな課題になると思います。今後詳しい国の方針を確認しながら、地域・経済・社会をどのように回復させていくか検討していきたいと思っています。マスクの着用についても、間もなく室内でも着用しなくてもよくなるという話も出ておりますが、それぞれ市民の皆さまの判断で対応せざるを得ないと思います。

○記者

5月8日(月)から5類に引き下げられるというスケジュールが出て、今後色々と切り替わる訳ですが、その準備・手続きは間に合いそうですか。

○市長

感染者が0になることはないと思いますので、今後の推移を見ていかなければなりません。医療面においては、どこでも受診できるようになります。これまでも様々な感染対策をとってきましたが、それが大きく変わるということはないと思います。これからも感染予防や感染状況の把握をしっかりと、日常生活をどう取り戻していくことができるか対応していきます。

○記者

2点目の米坂線について伺います。要望活動を沿線自治体で行っているということでしたが、似た事例で、只見線ではコアな鉄道ファンの方からも要望がきて、それも力になったというお話を伺いました。米坂線において、市民の力や民間の力が今回の要望活動の力になっている部分がありますか。

○市長

それぞれの地域で早期復旧してほしいという声は上がっていると思いますが、現在その事例のような取り組みは起きていないと思います。あまりにも米坂線の復旧が難しく厳しい状況で、調査をしてみると、他の鉄道沿線よりも厳しい状況にあるということは間違いありません。このような状況が、先に住民に伝わっているのかなと思います。今後雪が消えて、具体的な調査が行われる時期になれば、住民挙げての取り組みになっていく必要があると思います。その取り組みを、米坂線整備促進期成同盟会でやるのか、やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会でやるのか、協力して取り組んでいくことが一番良いと思います。そこも含めて、2つの会の中でどのように盛り上げていくことができるか検討していきます。

○記者

厳しい状況というのは、先日の豪雨を受けて復旧が難しいということと、赤字路線であるという2つの意味ですか。

○市長

厳しいというのは、被災した箇所が多すぎるのが一番です。赤字路線であるということもありますが、復旧するという方向性はJRも示しております。厳しい状況ですが、一日も早い復旧を求めて我々自治体は取り組んでいきます。

○記者

県主導で設立され、地域ごとにワーキングチーム等で取り組んでいるやまがた鉄道沿線活性化プロジェクトですが、トンネルや米坂線、置賜でいえば長井線を含めて全体で議論する機会はこれまでなかったと思います。このプロジェクトに対する市長の期待感をお聞かせください。

○市長

これからの地域住民の福祉向上や地域の活性化、県外からの関係人口増加において、鉄道は重要な意味を持っていると思います。単に米坂線の復旧のみならず、フラワー長井線の活性化、本市にとっては一番大きな福島－米沢間のトンネルの早期着工も含めて、鉄道全体の相乗効果として、米坂線の日も早い復旧に繋がると思います。県との協議にもしっかりと取り組みながら、置賜全体の鉄道の活性化に向けて取り組んでいく必要があると思います。

○記者

米沢駅にコワーキングスペースを開設する等、利用者増加に向けた取り組みを行っていると思います。米坂線の復旧を早くすることは技術的に難しいと思いますが、これだけ多くの利用者がいるということを示すことで後押しにもなると思います。米坂線自体の利用者増加に向けて、市として考えていることはありますか。

○市長

通勤・通学はもちろんですが、いかにして外からの利用者を増加させていくかが大きな課題だと思います。そのためには、観光も含めたまちの魅力を増やしていく必要があります。その中で米坂線は、置賜全体が沿線自治体ではありませんが、そこから波及するフラワー長井線等も一体となって、これからどのように利用者を増加させて

いくかにより、早期復旧に繋がっていくと思います。本市としても、米坂線の始発駅・終着駅でもありますので、今後も利用拡大に向けて取り組んでいきます。置賜全体でいえば、山形おきたま観光協議会では庄内地区との取り組みも行ってあります。そのようなことも充実させながら、JRにも利用拡大を示していく必要があると思います。

○記者

その他について伺います。会計年度任用職員で採用されているマレンコヴさんですが、3月までの契約になっていると思います。今後の進退が決まっていれば教えてください。

○市長

会計年度任用職員なので、3月で一旦契約は切れます。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻が今後どうなるかわからない状況の中で、マレンコヴさんのお父さんもいつウクライナに帰られるかも決まっておりません。そのような状況が続く中では、マレンコヴさんに会計年度任用職員として引き続きお願いしたいと考えています。

○記者

明日、上杉鷹山公NHK大河ドラマ化要望活動でNHK本社に行かれると思いますが、なぜこのタイミングで行くことになったのですか。

○市長

鷹山公の実家である高鍋町の黒木町長が今回の活動を計画してくださり、昨年11月頃だったと思いますが、様々な関係者に要請がありました。そういうことなら本市も共にやろうということで、NHK側の都合に合わせてこの日程になったと理解しています。

○記者

この要望活動は、今後も関連の3市町が一体となって行っていきますか。

○市長

天地人の時は、新潟県・福島県・山形県が上杉の一つの流れがありましたので、3県合同での取り組みもありました。今回は、宮崎県・愛知県・山形県が関連していますが、県を挙げての取り組みとするには困難を伴うと思います。その中で、高鍋町・東海市・米沢市の3市町の協力関係を強めて対応していきたいと思います。

○記者

もし大河ドラマになったときの地域への効果で期待する部分をお聞かせください。

○市長

天地人のときは、市民の方も含めて、それまで直江兼続を知らない方が圧倒的に多かったと思います。しかしながら、本市において鷹山公を知らない方はほぼいないと思いますので、名君鷹山公の大河ドラマということになれば、子どもからお年寄りまで盛り上がりは出てくると思います。日本全体でいうと、鷹山公を知らない方もいると思いますが、事業をされている方、企業のトップの方は鷹山公の経営学や人物像を承知していると思います。鷹山公がいればなという時代の雰囲気もありますので、どのような脚本になるか楽しみにしたいと思います。おそらくNHKにも様々な大河ド

ラマの要請がきていると思いますが、実現に向けての第一歩を踏み出すということで、今後も協力体制の中で取り組んでいきたいと思います。

○秘書広報課長

これを持ちまして令和4年度1月の定例記者会見を終了いたします。